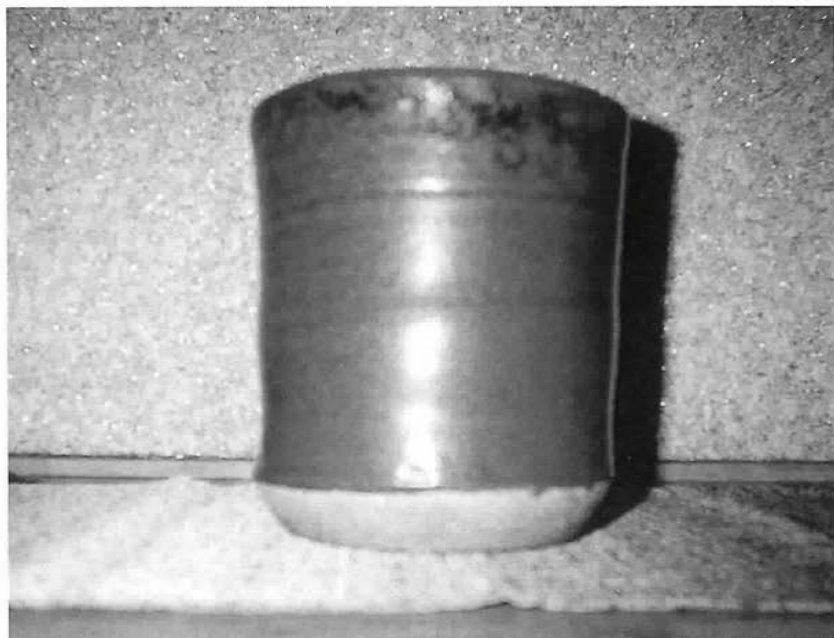


□ 名器に出会う □

古膳所水指と黄瀬戸香炉 家に残すこれぞ名品



古膳所鉄釉一重口水指

青木重雄

〈ひょうご愛陶会顧問〉

古膳所（こぜぜ）の遺品は数少ないが、この水指は17世紀初頭独特の膳所釉のやや赤味がかった金気が施軸されていて、小堀遠州指導の綺麗さが感じられる。この金気が時に丹波焼にそっくりのものがあり、驚かされるが、素地は白めで、この点が丹波と全然違うところなのである。この膳所焼鉄釉一重口水指はひょうご愛陶会の会員伊賀三男さんの愛蔵品で、氏が長年保持しているものだが、この人は兵庫県出身、現在は大津市在住の愛陶家だが、大津市に住みついて以来滋賀県下の美術古陶器ばかり集めて来ている変わった御仁

である。この人が昨年三月に自分の集めた滋賀県下の、それも琵琶湖周辺の古陶の名品約百点を「陶芸の森美術館」へあっさりと寄贈された（それを表彰されて国から紺綬褒章を受章された）ものだが、何か家に残しておきたい、というよりも息子さんに譲ったただ一点がこの品というわけである。大津に長年住んでいる記念からというわけでもないが、この珍品はかつて故小田栄一さんから見るなり「古膳所にまちがいないし」と太鼓判を押されているだけに、とりわけ愛情の深い一点なのである。

それともう一点多くの収集品の中から氏が家に残しているのは、黄瀬戸香炉（桃山期―江戸初期）である。あまり出来上がりはよくないが、もとは十点もの向付の中の一点と思われるこの品は、じっと見つめれば見つめるほど、どこか言いしれぬ品格を感じさせる点は、やはり桃山期の作品と言えよう。最近これに純銀の蓋を注文していつも床の間において眺めていますとは氏の弁である。真の愛蔵家で人格者の氏にはもってこいの二点と言えるだろう。この浅黄色が松葉文のような絵が二箇所に彫り描かれている桃山調の香炉に私も拍手をおくる次第である。

（サイズ）

■古膳所鉄釉一重口水指（江戸中期）

高さ 15・7センチ

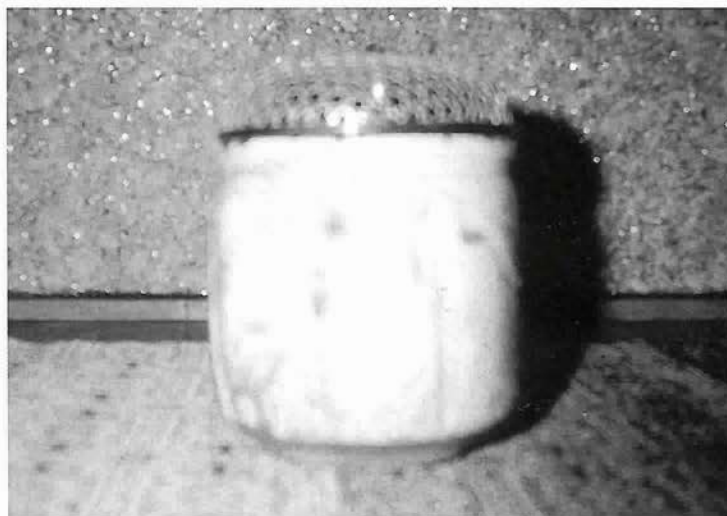
口径 14・5センチ

■黄瀬戸香炉（江戸初期）

高さ 8・2センチ

口径 8センチ

高台 5・5センチ



黄瀬戸香炉



でん太の 教えてドクター



その⑭ 現在の医療の流れは「EBM」が主流



お話／足立優歯科診療所 足立 優 院長

Dr. それではでん太の歯の、具体的な治療計画をたてようか。

先月はとりあえず応急手当てをする治療と、生涯にわたって自分の歯を残していくための予防中心型の治療方法のどちらかを選んでもらった。でん太は一生自分の歯で食べていきたいということだから、病氣の原因を取り除いた上で、お口の中全体を治していくことにしよう。虫歯のところは、歯をけずってかぶせる治療にしようね。

でん太 ちょっと待って、ドクター。それって痛いところがある？ドクターは歯をけずるのは得意？かぶせるだけでほんまに一生その歯は大丈夫なの？

Dr. そう、今のでん太の質問が、今回私が話したい内容なんだ。でん太くんは「EBM」って聞いたことがある？

でん太 イービーエム？

Dr. 略さずに言うところ「Evidence based Medicine」。医学的なEvidence（証拠）に基づいて治療を行なうという意味。すでにある医療の情報や、研究の結果を活用して、お医者さんがもっている経験・技能と、患者さんの価値観や好みなどを、総合的に見て、医療の方針や治療の方法を判断しようというものなんだ。歯医者さん

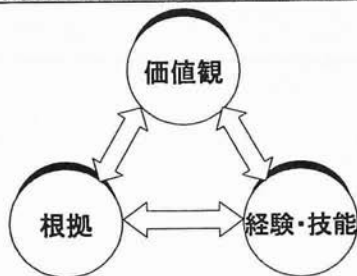
だけではなくて、内科や外科などの医療すべてにおいて、この「EBM」の考え方が主流になってきているんだよ。

でん太 何やら難しそうだけど、そういう医療の取り組み方は、今までだってされてきたのではないの？

Dr. 残念ながら今までの医療では十分ではなかったんだ。「EBM」を実践するには3つの要素があって、それらに十分な配慮がなされていないといけないんだ。まず1つめは「根拠」。これは、

医療情報、臨床研究結果のこと。お医者さんは、どういう治療をするか、どの薬を出すか決めるときに、自分の経験や勘だけに頼らないで、自分のところ以外の診療所でされた治療の結果や、別の研究施設での研究結果など、他の人が治療・研究した結果をたくさん勉強した上で、よりよい判断をなささいということ。2つめは「経験と技能」。「根拠」を基にして治療の方針が決まったとしても、それを実践する医師が異なれば当然結果は異なるよね。たとえば大学を出てすぐの先生と、キャリアが10年以上ある先生では微妙なちがいが出てしまうということかな。とくに歯医者さんの場合は治療の結

Evidence Based Medicineの概念



果がどれだけ長持ちするかという点ではっきり出てしまうよね。歯医者を支えるスタッフの能力や、治療を行なう環境も治療の結果に影響することを考えると、歯科医院ごとの総合的な「根拠」を出していくことが大事になるね。アメリカや、一部の日本の医療機関では、たとえば胃ガンの手術を過去10年間に何症例行なったか、その結果5年、10年でどの程度完治したかといったデータを総合的な「根拠」として開示しているんだ。こんなふうにはないといけないというのかな。

Dr. ほとんところでは「デンタルエージ」というもののさしを使って、患者さんのお口の状態を個別に評価しているんだ。その値が、治療後と5年後、10年後でどのように変化したかを評価して、それを統計的なデータとしてお見せしているんだよ。つまり、ほとん診療所で治したら、将来どう変化するかということを、治療を受けるかどうかを決定するための判断材料に使っているということだよ。

■足立 優（あだち まさる）1960年生まれ。大阪歯科大学卒。1988年米国留学後、神戸市東灘区に足立 優歯科診療所開設。行動医学の概念を基盤とした自己決定に基づく予防管理中心型の歯科医療を展開する。

足立 優歯科診療所

神戸市東灘区岡本1・3・33
TEL 078・411・0024 FAX 078・411・0056
e-mail: adachi@kba.att.ne.jp
http://ado.pr-business.net

※これからは患者の権利を守る予防歯科医療が主流となります。情報をお知りになりたい方は、Dr.足立までお問い合わせ下さい。

NPO法人 明日の歯科医療を創る会 POS 神戸相談室

神戸市中央区元町三宮町3-1-5

イソーラディ5F

TEL 078-3332-4618

FAX 078-3332-4617

にど"と思い出したくない
というで"きこ"とか
だれしも あるであらう



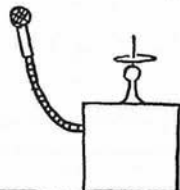
1

にもかかわらず" ひとは
ふいうちのように
それを思い出してしまう



2

そこで この装置じゃ
マイクに 忘れてしまいたいことをしゃべると
その思い出は封印されてしまう
にど"思い出せなくなる……



3

か、かしてください！



4

ぼくは 花子ちゃんにふられました
雪ちゃんにも ことわられました
みゆきちゃんにも 洋子ちゃんにもです



5

そういう装置を考えるとるんだか
うまいかん、という話をしてあったのじゃ



メアリーにも....

6

子どもが五感で 平野を歩いた



上左：まち歩き終了後、写真をたくさん貼った「ラリーボード」を持ってポーズをとる参加者の女の子たち。音を書くコマンドには「すー 木の音」など5つの音が。

上中：平野市場で「ら」の看板を見つけて、「ラムネ」をもらった3人。これも市場を知ってもらうきっかけになるかもしれない。

上右：昔、境内に土俵があったという五宮神社で「とんとん相撲」をして対戦。地元の人は子どもたちが勝つまで対戦してくれるというサービスぶり。

左下：珍しい六又路である六道の辻ではサイコロで行く道を決める。ここでは運が勝負。



中川啓子
ミル製作室

平成16年5月、神戸市兵庫区の平野地域で、地元の依頼を受けて、地域の親子対象のまち歩きを実施した。企画運営は数名のプランナーチームで行った。

平野地域は古くは奥平野と呼ばれ、一一八〇年、この周辺に平清盛が福原京を遷都したことでも有名な、古い歴史を持つ山手市街地である。昔の市電の終点・平野市場、点在する神社仏閣、趣のある路地など地域資源も多い。しかし震災時には人家は大きな被害を受け、地域を去った人も多かったという。地域では平成14年頃から平野のまちや歴史を知ってもらい、まちを元気にしようと、いくつかの地域団体が活動をはじめている。今回も、そんな活動の助けになればという思いで、楽しい工夫を考えた。

まち歩きのテーマは「五感」。大人＋子どもの3、4人のグループが7組、ボラロイドカメラと地図を片手に様々なコマンド（指令）を解きながら歩いた。コマンドは、まちそのものを感じてもらうために、「（お寺の境内で）きこえる音をたくさん書こう」といった体験タイプのものが多い。歩いた後は答えあわせをし、地域の人に歴史の話をしていただいて、終了した。歴史のまち歩きという知識を得る勉強タイプになりがちだが、今回はまち全体を感じて楽しむ切り口を提案できたのではないかと思う。

記憶に刻まれる場面⑤



矢代 恵

MEG建築設計事務所 主宰
神戸市立女子学院短期大学非常勤講師



- ①②15の家族を一つ屋根の下の大家族と想定をした15戸分譲集合住宅「VENUS COURT」
全戸個性の異なるプランに設けた住戸リビングをプライベートリビング、建物全体のリビングをパブリックリビングと位置付けている。
- ②みんなのパブリックリビングが、あたたかく住まい手を迎え入れる。
- ③町屋型建売住宅「SOHOのある家」
現代の家族のかたちをテーマにした、家で仕事を小家族のための住まい。
- ④「SOHOのある家」入り口に設けたDEN-土間空間。打ち合わせの場、地域との接点、コミュニティを育む場ともなる。
- ⑤SOHOより中庭、通りを見る。

様々な家族のかたちがある。以前は核家族でも夫婦十子ども二人という構成をベースに、住まいが考えられ3LDK、4LDKといったいわゆるnLDK型の間取りが一般的だったが、多様な家族構成の現代、住まいは空間の新しい考え、新しい方向性を見出していく時期になっている。

しかし、住まい手が明確でない不特定多数を対象とした住まいは、住まい手を選ばないかたちとなり、新しい家族のかたちに対応した住まいの取り組みが成されにくいのが現状。集合住宅では、一部「アトリエのある家」「ペットと暮らす家」といったテーマ性をもった住まいも作られているが、建売住宅ではほとんどなく、週末になると「4LDK南向き」といったキャッチコピー広告が賑やかになる。時代の変化と共に、家族のかたちは変化しているのに、住まいのかたちはたち遅れていると感じる。

しかし一方で、同世代や多世代型コレクティブハウス、社会高齢化に対応したグループホーム、シニアハウスといった住まいのかたちもつくられている。友人同士、あるいは全くの他人同士が一つ屋根の下に集まって暮らす集住のかたちは、血縁ではない新しい家族のあり方、方向性を示している。

時代の変化と共に、様々な家族のかたちに対応しながらも、住まいはやはり心安まる場として、そこで過ごす大切な時間や場面が、住まい手の記憶に刻まれるものであるよう、幸せな空気を生む空間であって欲しい。

●訪問シリーズ／企業変革に学ぶ⑤

音楽で磨いた感性を 呉服の世界に生かす

丸太や 取締役社長 三木 久雄さん



しかし、神戸しかも元町に立地するお店に無限の可能性を感じました。それで戻ってくる気になったのです。』

元町一番街。アーケードを入っ
てすぐ。「丸太や」が店を構えてい
る。「丸太や」は創業104年の老
舗の呉服屋。現在のご主人である
三木久雄さんは四代目にあたる。
現在は、オーケストラ活動を通じ
て知り合った成美夫人と、店を営
んでおられる。

三木さんは大学（早稲田大学）
に進んでから、しばらくは研究者
の道を夢見ていた。しかし恩師で
ある教授の研究ぶりや、同じ道を
目指す友人と自分を比較していく
なかで、研究者の道を断念する。
そして「丸太や」に戻ってきた。
『この店が、元町一番街にけれ
ばどうしていたかはわかりませ



執筆 著

井上芳郎（いのうえよしろう）
1957年、大阪府生まれ。大阪府立
流通科学大学中内ビジネス・学
スクール教授、名古屋大学
客員教授（平成14、15年度）。著
書に、『小さな会社のビジネス
プラン』（東洋経済新報社）、
『日本型ベンチャー成功の秘訣』（東洋経済
新報社）、『ビジネスプラン
の作り方』（中経出版）。

このように故郷に戻ってきた三
木さんだが、やがて呉服屋とい
う商売そのものに疑問を感じるよ
うになってしまった。当時、服飾の
洋風化は肅々と進み、和服を好ん
で着るという生活パターンは無く
なっていた。当然、和服に対する
需要は減っていく。そのような状
況で自分の店を成り立たせるため
には「買っていたかどうかというより、
売りつける」しかないような状況
になっていったという。そうこうし
ているうちに店の経営状況は悪
化の一途をたどる。そんな時、三

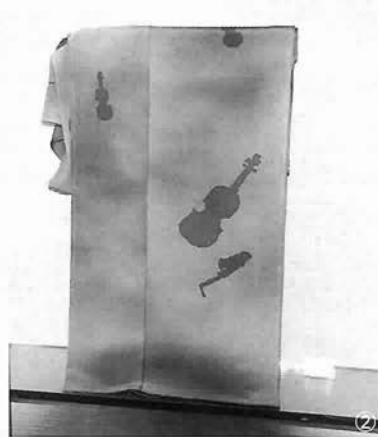
木さんが当時の会計顧問である税
理士のお宅を訪ねた。顧問の先生
の奥様が『小物でもおいたら面白
いのに。』とつぶやくのを聞く。
そのことを老舗呉服店としてのプ
ライドが高かった叔父に伝えたた
ころ、ようやく叔父は重い腰を上
げる。

三木さんは、アドバイスを受け
た問屋の担当者と東京へ向かう。

商品を仕入れるためだ。問屋の担
当者は『これからの丸太やを支え
るのは三木さん』という考えから、
三木さんに商品を見る目を養わせ
ようとしたのだ。そのように苦勞
して仕入れた商品を店頭に並べて
三木さんは驚いた。『飛ぶように
売れるんです。今まででは、お客
様に無理矢理買っていただいてい
たところがあった。ところが、小
物は飛ぶように売れる。目から鱗
が落ちる思いでした。』その頃、
もう一つの転機があった。成美夫
人との結婚である。

小物を取り扱うようになってお
店は少し安定した。その後、長女
が誕生し、叔父が引退した後、成
美夫人は店頭に立つようになる。
もちろん、着物を着て、である。
それまでは殆ど着物を着なかった
成美夫人が着物の良さに目覚める
ようになる。四歳の時からバイオ
リンを弾き、音楽大学を卒業し、
オーケストラで演奏し、そして中
学で音楽を教えていた成美夫人。
音楽で磨いた感性は呉服の世界で
も発揮されることになる。

店に立つようになった成美夫人



①全国の音楽愛好家から注文が。結婚式の引き出物などに利用されるケースが多い
②③バイオリンやピアノをさりげなくデザインすることがポイントと話す。染色は日展の特賞を受賞した経歴をもつ横山喜八郎さんの作

は、なにかしら寂しい思いを感じるようになっていた。そう、四歳の時から慣れ親しんできた音楽のにおいがしないのだ。呉服屋だから仕方が無いとは思ったが、それでも寂しくてたまらない。やがて、『年末にお客様にご挨拶に伺うとき、バイオリンの柄が入った帯をしめていこうかしら』と思いつく。色々なところに相談したところ、つづれ織りという手法で対応可能ということをも、取引先の川島織物から教えてもらう。此処でもまた、目から鱗が落ちた。そう、オリジナル商品を作ったかったら特注すればよい。三木さんは語る。『うちのような小規模のお店が大きなチェーン店に負けないためにはオリジナル商品を持たなければダメですね。』

帯で始まったオリジナル商品は、やがて着物に発展する。そして大きく展開しようとした矢先に衝撃的な出来事が起こる。阪神・淡路大震災である。せっかく波に乗りかけてきた事業がしぼんでしまうという危機感にさいなまれていたとき、神戸商工会議所が東京で復興物産展を開くという情報を耳にした。しかも、格安の料金で。色々悩みつっと思いついて東京に行った三木さんを待っていたのは、早稲田大学時代の友人であり、音楽で広げた仲間であった。予想以上の

成果に自信を得た三木さんは、その後全国各地のアトリエで商品の展示・販売を行うようになる。このような活動が日の目を見ないわけはなく、着物の専門誌である「きものサロン（家庭画報社）」や「美しいキモノ（婦人画報社）」で取り上げられるようになった。以後、全国の消費者から「丸太やの商品が欲しい」という問い合わせがひっきりなしに来るようになる。現在、オリジナル商品は売上の40％程度を占めるに至っている。

『このように元氣を持ってやれたのも、神戸・元町というブランドに支えられた面は大きいと思います。ただブランド力だけではダメで、それを具体的に表現する商品が必要。うちの場合は、それがオリジナル商品だったんですね。』

三木さんのご家族は全員楽器を奏でられるとのことである。ご家族で『弦楽四重奏団』を組んでおられる。そのメロディーが丸太やを發展させ、やがて元町商店街を、さらには神戸全体をも巻き込んだハーモニーになっていくことを願ってやまない。

株式会社丸太や
神戸市中央区元町通一丁目7-12
☎078-1331-11031
<http://marutaya.com>



上根 亨（かみね とおる）
1957年神戸に生まれる。
大阪芸術大学卒業後カミネに入社。
JJA日本ジュエリー協会正規会員。
AIHH国際高級時計協会正規会員。

次代を創る
神戸のニューリーダー

24

上根

亨

株式会社カミネ
代表取締役社長

2年後100周年を機に、第二の創業がはじまる。
高級品に宿る伝統の力を、これからも伝えたい。

1906年に創業した高級宝飾・高級時計を扱う株式会社カミネ。伝統を受け継ぎつつ、顧客の感性に應えるべく、「伝統と革新」を理念に進化の歩みを継承していく。神戸のトアロードに位置するトアロード本店は、このカミネの「伝統と革新」を象徴するかのように、旧居留地の佇まいの中に、ランドマークのように存在する。未来永劫、その美しさを失わず、時代を経てなおその価値を失わない伝統の力について、上根亨社長にお話を伺った。

創業から100年 神戸へのこだわり

創業は1906年ですから、再来年でちょうど創業100年になります。元町通で創業し、初代はかんざしや懐中時計のチェーンなどの金細工を扱っていました。その後、一旦中断している時期があります。何を思い立ったのか、広島県の福山市で店主をしていた時期があるのです。その後、僕の祖父にあたる2代目が、再び長田商店街で商売をはじめたのです。ローカルな商店街も活気に溢れていた時代ですね。

三宮に進出したのは親父の代からです。借金をして畳一帖ほどの敷地で商売をはじめたのです。ひとりで辛抱してやっていたと思っていられないのですが、ご近所の方々にたすけられ、三宮に馴染んでいくことができて、いまの店舗のきっかけになりました。

カミネの家風として、昔から舶



2001年に旧居留地界隈の一角に完成した
トアロード本店

来物や高級品などへの関心が強かったようですね。ですから商売でも、海外の一流ブランドに絞っていくようになったのだと思うのです。僕は芸術大学出身なのですが、卒業後すぐにこの店に入りました。本当は芸術関係の仕事に進みたかったのですけど。老舗の家というのは、どこも似たり寄ったりな部分があると思います。徐々に「やらなければ」という使命感と、「やりたい」という気持ちでできてきました。大学在学中にアルバイトで店と関わりはじめて徐々に商売が分かってきたような気がします。美しいジュエリーや時計を扱う商売が、魅力的に見えてきたのです。扱っているものが高級品ですから、景気の良し悪しに多少は影響されますが、大きな浮き沈みは感じません。20年前でも、いまでも、同じように思います。

まちに再び光を 震災から第二の創業へ

阪神・淡路大震災では、トアロード店はほぼ全壊しました。震災の年の春まで店を開くことができませんでした。ちょうど改装工事をしようと思っていた矢先だったのですが、

何もできなくなりましたね。震災直後は、コンクリートむき出しの店に、掛け時計や目覚まし時計を並べて、被災者に配っていました。寒さが厳しい中、本当にきつかったですね。会社としては100年近く続いているのですが、私個人としては、震災後がカミネの第2の創業だという感覚でした。

つらい経験ではありましたが、良い経験をさせて頂いたと思っています。震災直後、この周辺は大丸神戸店もつぶれていましたし、いまのような広い中央大通りもなく、本当に真つ暗な状態だったのです。ずっと工事が続いていたので、埃だらけで汚い街角でした。そういう光景を見ると、神戸らしく早くまちを美しくしたいという思いが強くなり、内装工事をしてきれいにして店を開けたのです。

それが5月頃なのですが、その矢先に泥棒にダンブカーで突っ込まれてしまい、店内を全部壊されてしまいました。少しでも神戸に光を与えたいという純粋な気持ちでやっていたので、その事件は大ショックでしたね。そこから再び、いまのビルを建てることになったのです。その間、取引先をはじめ、本当にたくさんの人に助けて頂きました。オープンときには店の周りに百何十本という花を頂戴し

ました。それらの花は、ほとんどがお客様から頂きました。

神戸のまちに、高級品を扱う店を再びオープンすることで、被災地に光をもたらすことができたという気持ちになりました。単にものを売る商売ということだけではなく、店が存在することが、神戸のまちに必要だということを実感しました。社会的な存在意義を強く認識できたのです。

大丸神戸店が再びオープンしたときも、とても感動的でしたね。神戸の女性は大丸神戸店が好きという人が多いのです。大丸神戸店が再開したときに、涙を浮かべて喜んでいた方が、たくさんおられました。そういうことが、うちの店にとっても嬉しいことなのです。やっぱりお客様は、まちに出てきてきれいなものを見て、楽しみたいと思っています。震災によって、企業としての使命感がとても強くなりました。

ガラスを磨くことで 心を磨いてほしい

高級なものには、それだけの正当な理由があります。その筆頭が時計だと思うのです。高いものにはそれだけの情熱と、伝統に培われた職人の情熱が宿っています。スイスなどでは神聖な雰囲気

の房があり、静かなところで職人が、何日もかけて手作業でひとつの時計をつくっていくのです。日本人はブランド品が好きですが、日本の消費者は世界一厳しい目を持っています。品物がしっかりしていなければ受け入れられません。ですから扱う商品にも、製造元に歴史と信用があることや、時計としての機能が優れているなどが重要ですね。扱う商品は現地で買い付けるのですが、職人や、マーケティング担当者の考え方を直接聞くことが大事だと思うのです。安く大量生産というより、ひとつひとつ丁寧につくっている会社のもを扱いたいのです。高級品にはただ高いというのではなく、夢やストーリーがあります。

神戸というまちに、私は誇りを持っています。そして誰よりも愛着を持っているつもりです。いろいろな困難がありながらも、神戸のまちで4代にわたって店をつづけてこれたことを、誇りに思っていますし、大変光栄なことだと思っています。いまカミネは神戸に3店舗あります。大阪や銀座からの出店要請もありますが、私自身はそれほど拡大思考を持っていません。店を広げていかなければ、満足なサービスを提供できないというの



まだカミネが長田商店街にあった頃。
上根社長の幼少期の写真

であれば、大きくしていく必要があるかもしれません。しかし、この先も神戸にこだわりつづけたと思いますね。

最近のお客様は、来店する前に、下調べとして、インターネットを利用して人はい多いようです。弊社のあらゆる情報をホームページで紹介していますが、やはり商品を実際にご覧頂いて、楽しんで頂くことが非常に大切だと思っています。

最近では高級ブランドに対する抵抗もそれほどなくなっているようで、気楽に楽しんで下さるお客様も多いですね。お客様とは時計の話だけではなく、趣味の話や世間話もたくさんします。年に2回ほど展示会を開きますが、この店の二階にスイスの巨匠を招いて、パーティーやサイン会を度々開催しています。そうすることで時計の歴史や素晴らしさが、お客様により伝わると思うのです。非日常的な時間を、お客様に提供することは大事なことで、社交性のある欧米

の文化を、多少なりともご理解頂けるような場でありたいし、そういう機会をつくっていきたく思っているのです。お客様の中には、世界有数のコレクターの方などもおられるのですが、そういう方々と話をしていると、逆に時計の素晴らしさを教えられますね。私は時計のセールスもありますが、お客



「2004カルティエ プレステージ ウォッチ フェア」。
カルティエジャパン.CEOの姿も

様はその時計と人生を共にしているのです。時計に対するご意見は、圧倒的にお客様の言うことからヒントを得ることが多いですね。そういう話に耳を傾け、スイスにも伝えていくことが、お客様が求める時計づくりにつながっていくのだと思っています。



「2004年パーゼル&ジュネーブ新作発表受注会」。
『時計ビギン』植田氏と『レオン』の柴田氏と共に

常に大きな節目であると思っています。先ほど言いましたように、お客様、商品の数が、いまの規模では扱いきれなくなったら、店を上げていきたいと思っています。僕自身にそれほど拡張思考がなくとも、社員や取引先に対しての義務がありますからね。特に社員は震災前から勤めている者がたくさんいます。貴重な人材というより「人材」です。社員は大事にしていかなければなりませんし、彼等の将来についても考えながら会社運営していかなければならないと思っています。

カミネの原理原則として、ショールームを磨きあげるといふことがあります。お客様をお迎えするわけですから、店づくりは、より完璧に近いことが求められます。社員には厳しいことも言いますが、毎日ピカピカにガラスを磨くことにより、同じように自分の心も磨いてほしいのです。そんな中で真摯で謙虚な姿勢を持ち続けることが大事なことでと思っています。私を含め社員ひとり一人の気持が、お客様に伝わり、良い店をつくっていくのだと思っています。



「高級品の最たるものが時計です。時計は人生と共にある」と上根社長は高級時計の魅力について話す

神カミネ
神戸市中央区三宮町3-1-22
トアロード店 078-332110039
さんプラザ店 078-339111571
元町店 078-3327133673
<http://www.kamine.co.jp>



「サリバンド チ 静物」テンペラと油彩 81×116cm

- 1979年 慶應義塾大学文学部卒業
 '80年 渡仏
 '86年 パリ国立高等美術学院卒業
 '91年 サロン・ドートンヌ会員になる
 '94年 安井賞出品
 現在 パリ郊外に在住

果物たちに愛を込める松田千草さんの静物画は、言い知れぬ優しさと、穏やかさが漂って曲雅。
 加古川生れだけれど、慶應大からフランスへ渡り、パリ国立高等美術学校クレモニーニ教室を卒業。以来

パリに、加古川を往来し、パリ郊外にイタリア人のご主人（舞台美術家）と住む。朝市に並ぶ瑞々しい果物たちの個性に魅力を感じた千草さんの静物画限定版のトリグラフも登場。



私の「フランス組曲」 松田千草作品展

11月10日(水)～16日(火)

大丸神戸店アートギャラリー7 F



Color Wave 嘉納千紗子展

2004年12月9日(木)～14日(火)

AM10:30～PM6:30 最終5:00

元町画廊 JR阪神元町駅前

「久々の個展なんですよ」と嘉納千紗子さん。元町画廊で開く個展には色が好きだからタイトルを「COLOR WAVE」にした。面白いのは額縁を金属にしたり、アクリルボックスに絵を入れたり、金属と

絵”をからみ合せた作品になるそう。千紗子さんことノンちゃんのアクセサリーは自由な感覚が楽しくガラスジュエリーを金属の組み合わせも個性的だ。こうべ芸文の会員になったばかり。

- 1969年 山手女子短期大学芸術家油絵卒業
 '71年 第56回二科展初入選（東京都美術館）
 '89年 第13回ローズガーデン現代美術公募展受賞（神戸）
 '92年 個展・嘉納千紗子の宇宙展（神戸大丸ジーニアスギャラリー）
 '97年 個展・嘉納千紗子オブジェ・ガラスジュエリー展

元気パワーのアーティストたち



第7回《アーティストの集い 2004》 平成16年9月24日(金) 18:00～20:30・生田神社会館

第7回「アーティストの集い2004」が、9月24日、生田文化会館で開催され約180名が集った。今年の司会は、彫刻家の新谷琇紀さんと指揮者の朝比奈千足さんと異色のコンビ。オーブニングは、貞松融バレエ団のメンバーによる「瀕死の白鳥」と「花のワルツ」を優雅に踊った。

メッセージは、矢田神戸市長。「オリックス・パファローズになることは、神戸にとっていささか残念」と、神戸が育んだオリックスへの愛情を語った。

乾杯は神戸ワインで。田原祥一郎さん、松本幸三さん、宮崎京子さん、永井和子さん他。テナーとソプラノの合唱は迫力充分。

井戸敏三兵庫県知事も駆けつけ、「兵庫県立美術館、原田の森ギャラリー共々、皆さんの作品を紹介できて大変嬉しい」と。

また「アーティストの集い2004年」が、作家たちの絵の展覧会を企画。「04えびら美術展」が開かれ、アーティストたちの競作は見応え充分だった。



KOBETOMACHI

元町NEWS

大正期のバーゲンセール 「誓文払い」が復活 2004 MOTOMACHI HEART 「希望の灯(あかり)」を募集



誓文払いで賑わいを見せた元町商店街

ワゴンで大特価セール。
乞うご期待！

元町一番街
11月13日(土)、14日(日)
「誓文払い」を実施

元町商店街は、大正2年には、試験道路として日本で初めてのアスファルト舗装を行い、14年頃には街のシンボルとしてスズラン灯を設置した。以後、元町通は、日本国内でも時代の最先端をいく商店街として全国に知られるようになった。当時開催されていた「誓文払い」と名付けられた年

に一度のバーゲンセールは、近郊近住からの買い物客で大いに賑わった。

第2次世界大戦の空襲により、商店街は完全に焼失してしまっ。しかし、3丁目の商店街は他の商店街に先駆けてジュラルミンを使った通りとして、全国でも最も早い時期に復興した。11月13、14日の2日間、一番街では「誓文払い」を再現することになった。昔ながらに紅白の幕で飾った

こうべ元町から希望の灯
今年、元町商店街は生誕130年を迎えた。これまでに、記念事業を行ってきたが、その締めくくりとして、12月から1月にかけて「希望の灯(あかり)」を開催する。また、去年大震災から10年を迎えることになり、被災者の多くは、未来への「希望」を夢見ていたから、ここまで復興が進んだ。「希望」が生命の力となる。だからこそ「希望」にこだわった絵を募集して、集まった「絵」の中から10作品を選考し、提灯に表示して元町商店街全一のアーケード下で提示する。

応募募集要項
テーマ 「希望」

応募規定 「希望」をテーマにした絵。A4サイズ用の紙に縦18センチ×横27センチの横長枠内でデザイン。使用カラーは自由、印刷の都合上蛍光色等は表現不可。応募作品の裏面には必ず、お名前・年齢・郵便番号・ご住所・お電話番号を記入。尚、応募作品の著作権は、主催者に帰属、返却不可。応募資格 プロ・アマ問わずどなたでも応募可。応募受付 郵送で11月17日(木)までに送付。〒650-0022 神戸市中央区元町通3丁目13-1元町商店街連合会(当日消印有効) 作品選考 応募作品の中から40作品を選考。

2004 MOTOMACHI HEART
こうべ元町から
希望の灯
作品募集

応募期間：11月17日(水)まで
展示期間：12月4日(土)～30日(木)
展示場所：神戸元町商店街



12月4日(土)～12月30日(木)まで開催される「希望の灯」



TOR ROAD



山から海へ、風の取道

苦節18年 トアロードに未来の扉を開ける 35階建と13階建ビル 「トア山手」平成19年に完成

「トア山手プロジェクト」完成予想図
—本組合設立時— 平成16年10月1日

35階建て高さ123mの超高層棟（左）と、13階建て 高さ約50mの高層棟。住宅総戸数は310戸にのぼる

昭和63年の中山手再開発協議会の設立から18年。粘り強い活動が、震災を乗り越えて結実。本年度末には本組合設立を目指すと実施段階に入った。

「トア山手」という愛称も決まって、中山手通3丁目、下山手3丁目の一部（約6700㎡）になる。

デベロッパーは住友不動産㈱、㈱リクルートコスモス、権利者数約190名のうち90パーセントが華僑関係者が占めることから、高層棟（13階建、高さ50m）は、中華料理店や、中国医療センターに。または中華同文学校の発祥の地にもあたり、記念間も整備する予定。超高層棟（35階建て高さ123m）、住宅総戸数310戸、事業費約130億円という大プロジェクト。

超高層は六甲の山並みに映える神戸らしいランドマークとしてのデザインに配慮し、最上階は景色を眺望する場に。また、周辺の住宅に配慮して、公園（1、000㎡・愛称「トア公園」）を提供し、現在の道路の道幅を広くして都市環境づくりを考えた配慮が伺える。



あなたの「ボランティア活動」への熱意を支えます ひょうごボランティアプラザ

「県民ボランティア活動」とは、県民が行ったり、県民のために行われる、自発的で自立的な、営利を目的としない活動です。ボランティア活動には、地域の自治会などによる地域づくり活動からNPOによる継続した活動まで、さまざまなものが含まれます。阪神・淡路大震災の被災者に、勇気と感動を与えた社会貢献活動。そこから広がったボランティア活動の全県的な支援拠点が「ひょうごボランティアプラザ」です。

「ひょうごボランティアプラザ」では、ボランティア活動に関わる人々の活動や交流の支援、またそれに関するさまざまな情報提供などを行なっています。プラザ内には会議室、ボランティアやNPOに関する資料を集めた図書室、印刷機、製本機などがあり、登録している団体の方なら無料で利用することができます。これから立ち上げようとしている団体の支援を目的としたインキューベーターコーナーではロッカーやメールボックスがあり、ここを拠点として郵便物やファクスを受信することもできます。

ボランティア活動に興味のある方は、「コラボネット」で家庭や職場からでも簡単に情報を入手することができます。各市町にあるボランティアセンターとも連携し、各地で行われているボランティア活動情報や団体をインターネットで紹介しています。また、プラザではNPO法人化をめざ

すグループの相談も受け付けています。活動資金として、全国最大規模の「ひょうごボランティア基金」による直接的な支援も行っていますので、気軽にお問い合わせください。



神戸市中央区東川崎町1-1-3

（JR神戸駅下車すぐ）

神戸クリスタルタワー10階

TEL 078-360-8845

URL <http://www.hyogo-vplaza.jp/>

（水害や地震などによる災害救援情報も掲載）

開館時間 平日・土曜 9時～21時

日曜・祝日 9時～17時

お詫びと訂正

本誌10月号「HYOGO・WALK」におきまして、乾 由明様のお名前に誤りがございました。ご本人及び関係者の皆様にご迷惑をおかけいたしましたことを慎んでお詫び申し上げます。

△月刊神戸っ子編集部▽

地域づくり活動情報システム コラボネット

地域づくり活動を行なう団体

コラボネットって何だろう？

活動情報を登録します

登録

私も仲間に入らせて下さい

私たちの活動内容です

仲間づくり

活動情報の発信

こんな活動があるのね

閲覧

個人でボランティアとしてみたいけど、いすのかな

インターネットを利用して簡単に仲間づくりができますね

04.11



有馬歳事記

「観光カリスマシンポジウム」で 陶泉御所坊主人・金井啓修さんが語る

「観光カリスマ」とは、地域の観光ビジネスにおいて中心となり、独創的な取り組みをし、観光地の活性化に大きな貢献をした個人を、内閣府が選定したもの。現在、全国各地で観光によって地域を元気づけようとしている人たちが、観光産業にたずさわる人々を集め、観光カリスマたちによるシンポジウムが、10月27日新神戸オリエンタルホテルで開催された。有馬温泉でカリスマに選ばれた陶泉御所坊主人・金井啓修さんも、この日パネリストとして参加し、有馬温泉の課題や現在の取り組みについて話した。

金井さんはまず、27年前に有馬に帰ってきてから手がけた、自分の旅館「御所坊」の改築について「ものを創るにはコンセプトが必要。そし

て、残すものと、時代とともに捨てていっても良いものを見極めることが大事」と話した。それまで団体客のための旅館だったものを、家族や個人の旅行者にスポットをあてた改築を行なった御所坊は、歴史が深い有馬にこだわり、レトロな内装とともにロンドンタクシーなどのおしゃれな企画を同居させ、女性客を中心に人気を集めている。

阪神淡路大震災では、有馬温泉も大きな被害を受けたが、それを逆手にとって、復興イベントをはじめ、多くの新しい企画が生まれた。そのひとつが、お昼の食事とお風呂をセットにしたもので、各旅館がこの企画をはじめ、それによって、有馬の街を散策する観光客が増え、街並みにも気を使われるようになり、外湯も増えた。「25年前は、神戸以外の人が行っ

てみたい神戸の観光地はというと、北野や六甲山だった。けれど、今年行なったアンケートでは有馬が1位になった」と金井さん。特に、歩いて楽しい有馬づくりでは、ギャラリーや博物館、カフェなど有馬の中に次々と新しいスポットを生みだしてきたのが金井さんだ。

昨年オープンした「有馬玩具博物館」は、世界各国の手作りおもちゃや、日本の伝統的なからくり人形、淨瑠璃人形などが展示されている。「なぜおもちゃを通じてまちづくりを思ったかという、子供の頃来て遊んだ玩具博物館に、大人になってからまたその子供を連れてくるという循環が可能ではないかと思ったこと」。

有馬一望・歴史の名湯

HYOE

兵衛

向陽閣

TEL (078) 904-0501 (代)

URL <http://www.hyoe.co.jp>

 有馬温泉 月光園

GEKKOON

酒蔵 館

K O R O K A N A

TEL (078) 903-2255

姉妹旅館 湯の山荘

TEL (078) 904-0366

テニスでいい汗
いい湯にとっぷり味に集う

ARIMA

SUNNY SIDE UP
TENNIS CLUB

TEL (078) 903-1024

 有馬 御所坊

TEL (078) 904-0551

静寂さにつつまれた
くつろぎの宿

国際観光旅館

923 924 925 926

陵 楓閣

TEL (078) 904-0675

トをつくり、メインストーリーにはない「隠れた路地裏のつやばさ」を売り出そうとしている。

「最近の温泉問題についてもそうだが、日本人は何度のお湯に浸かるかとそのようなことばかり言っているが、ドイツなどヨーロッパでは、温泉をもっと楽しんでいる。スイスでは、アーティスティックな建造物の温泉に行った。光や香り、音などを楽しみ、一日中いても楽しい温泉だった。そのような楽しみ方をしてもよいのでは」と金井さん。ホスピタリティに関して



は、駅で預けた荷物が旅館に届く新しいサービスについてなどにも触れられた。「ホスピタリティ、人間的なサービスによって、感動した観光客が、国に帰ってその感動のクチコミにつながり、活性化にもつながる」という意見も。ディスカッションでは、会場参加者から「失敗談を」と求められ「こうしたうまくいくだろうと思っていた事業は失敗するが、自分がこうだと思ったこと、自分がわくわくするなと思ったこと、これをしたら人は驚くやろなと思ったことをすぐ実行するとうまくいく」と金井さんは話した。

シンポジウムには、他に、緑、花、雪、農業などありのままの自然を舞台にしたグリーンツーリズムによる地域づくりに取り組んだ長野県飯山市の元市長・小山邦武さん、農業直売店によって高齢者や女性の自立した農村づくりの中心となった愛媛県内子町の野田文子さん、皿そばや城下町の街並みをP

Rし出石地域を活性化させた上坂卓雄さん、賃金を払って仕事をしてもらいながら休暇を楽しむという「ワーキングホリデー制度」を導入した宮崎県西米良村長・黒木定蔵さんの、5人の観光カリスマたちが参加した。「自分たちの地域や、暮らしが良くなるように、無我夢中でやってきた。みんなやってきたことで、カリスマという名前は気恥ずかしい」と皆さん。その中で金井さんは「自分の情報をたくさん発信することによって、自分のところにもいろいろな情報が入ってくる。そのために観光カリスマをお受けした。今回、私も農業などの情報をたくさん得られたので嬉しい」と最後に話した。今回参加したカリスマたちからは、「住んでいる者には、その地域の良さや、その良さをどのように生かしたらいいのかがわからない。そのことはよそから来た人の方がわかる」ということで、県外や海外からのアドバイザーを呼び勉強会を開いたり、事業の代表に就任してもらったりしている例が多数あげられたことも印象的だった。

有馬での会食・宴会は懐石料理・ステーキが楽しめるいろり亭「華達」で!!
(昼5000円～、夜8000円～)
有馬温泉 政府登録国際観光旅館
銀水荘別館

ちやうく
北楽

TEL (078) 904-3656(代)

自然の恵みを
湯けむりに伝える

政府登録国際観光旅館

古泉閣

TEL (078) 904-0731

日本の伝統
数寄屋造りの館

欽山

TEL (078) 904-0701

チェックイン13:00、アウト12:00
ゆっくりとお過ごしいただけます。

雅だようくつろぎの館

中の坊瑞苑

TEL (078) 904-0781

会議セミナーからご家族づれまで
有馬グランドホテル

TEL (078) 904-0181